

今年125周年を迎える中央大学。125周年の歴史の中には、様々なエピソードが存在します。中央大学創立125周年記念サイトでは、「歴史で辿る中央大学」として、本学の歴史にまつわるエピソードを紹介しています。今まで知らなかった中央大学の新たな一面を発見してみたいかでしょうか？

[ Society ] 白門を開いて

1945  
“昭和20”



吉田久

## 軍政の圧力に屈せず 吉田久

東京法学院大学を1905年卒業。検事・検察官・判事などを歴任し、大審院部長判事に就任。1942年東條内閣の翼賛選挙<sup>(\*)</sup>に際し、鹿児島選挙区で落選した非推薦候補者<sup>(\*\*)</sup>の選挙の無効を求める訴えに対し、1945年3月戦況が逼迫する中、政府の圧力に屈せず選挙無効の判決を下した。後、職を辞したが、終戦まで特高警察の監視下にあった。中大では戦前から講師を務め、そのほか理事、学長事務取扱、大学院長を務めた。思想的には保守派であったが、ファシズムや権力の横暴を嫌い、いかなる思想も暴力で弾圧されてはならない、という信条の持ち主だった。1971年没。享年88。

\* 1：政府方針に反対する候補に投票しにくい状態や反対候補が立候補しにくい状況で行われる選挙。  
\* 2：大政翼賛会（翼賛政治体制協議会）などによる推薦を受けない候補者。

### Time Machine Topics 【終戦】

8月14日、閣議においてポツダム宣言の受諾を決め天皇に上奏。同日受諾を連合国側に通告し、翌15日国民に発表された。9月2日米戦艦ミズーリにて降伏文書に調印。

125周年記念サイトではこの他に、「わたしと中央大学」というコンテンツで、各界で活躍中の本学にゆかりのある方のエピソード紹介や皆さんからのエピソード投稿も受け付けています。ぜひ、皆さんのとってきおきのエピソードを投稿してみてください。

詳細は、中央大学創立125周年記念サイトをご覧ください。

中央大学創立125周年記念サイト <http://chuo125.jp>

## 編集室

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。今日からはじまる大学生活が充実した、実りのある4年間になることを祈念致します。

小誌『Hakumon ちゅうおう』をお読みいただきましたでしょうか。本号には、大学生活をおくるうえで道標（みちしるべ）が沢山盛り込まれていますので、まだの方は是非お読みいただきたいと思っております。その道標のいくつかをご紹介します。まず、本学理事長を務められたセブン&アイ・ホールディングスの鈴木敏文会長兼CEOは、「最善を尽くす」「諦めない」、そして「チャンスはどこから出てくるかわからない（だから）挑戦の気持ちをお忘れたい」と強調されています。

法学部の『やる気応援奨学金』を活用して国際インターシップを体験したOGは、「若者は、外へ出よ」と、坂本龍馬の流に広範な視野に立つて活動するよう後輩達にエールを送っています。

また、本学相撲部出身で元大関出島の大鳴戸親方は、「流した汗は嘘をつかない」と努力の重要さを説いています。いずれもシンプルな言葉ですが、自らの力でハードルを乗り越え、切り開いて得た箴言だけに重みがあります。私は、その共通軸として、楽しさだけを求めていたのでは「実り」につながらない、というメッセージを感じます。

みなさんはいかがでしょうか。ヒントにしていただければ幸いです。（編集長 伊藤博）

学生記者が取材・編集する大学広報誌

Hakumon

Chuo  
ちゅうおう

2010

春季号

2010年(平成22年)4月1日発行 No.216

発行 中央大学広報室

〒192-0393  
東京都八王子市東中野742-1

〈編集担当〉

『Hakumon ちゅうおう』編集室

☎042-674-2048

印刷 泰成印刷株式会社  
〒130-0026  
東京都墨田区両国3-1-12  
☎03-3631-8141